

平成 21 年 6 月 3 日現在

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2007～2008

課題番号：19530786

研究課題名 (和文) 教員養成系大学における絵画教育内容の構造化についての研究

研究課題名 (英文) The Study on the Structurization of the Educational Content of Painting at Japanese Teacher Colleges

研究代表者

小澤 基弘 (KOZAWA Motohiro)

埼玉大学・教育学部・教授

研究者番号：40241913

研究成果の概要：

平成 19 年度は、インターネット上から全国国立大学法人教員養成系大学・学部における絵画教育に関する授業シラバスを検索し、それらを一覧して要約的にまとめと共に、そこからキーワードを抽出し、それらの頻度をカウントして、現在行われている教育学部における絵画教育内容の総体を俯瞰できるような資料作成を行った。また、同時にシラバスだけでは明確にできないような事項、例えば絵画教育における「個性」あるいは「感性」をどう捉え、それをどう教育の中で反映させているか等の、核心的事項に対して、直接全国の絵画教員にアンケート調査を実施した。つまり、本研究のために必要な資料作成に初年度は費やされた。

平成 20 年度は、前年度作成した資料に基づきながら、現行の教育内容の分析及びその分析から浮上する共通事項と諸問題について、シラバス分析とアンケート結果の分析を行った。また前年度二校の大学を訪問し、実際の授業内容を取材すると同時に各絵画教員に対してインタビューをいったが、それらの資料も同時に活用しながら、絵画教育内容の構造化を進めて行った。材料や表現手法という教育内容の表層的側面に対する授業は、殆どの大学において満遍なく展開されているが、重要なことは「個性」や「感性」に密接に関わる自己発見や自己実現の問題を、いかにして教育内容の中に明文化し、かつ教育方法として具体化していくかという点にあることが、明らかとなった。つまり、学生に主体的に自己制作と作品について「反省」させる有効な方策の模索が、とりわけ教育学部の絵画教育（ひいては全教科専門的教育）にとって、極めて重要であることが明らかとなった。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2008 年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,900,000	570,000	2,470,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教科教育学

キーワード：絵画教育、シラバス、個性、感性、自己実現、反省、構造化

1. 研究開始当初の背景

教員養成系大学における絵画の教育は、担当する教員の実技体験に基づく価値観や思考に偏向する傾向が否めない。つまり、教育内容に偏りがあり、普遍的内容が整備されていない現実がある。

それは絵画だけに留まるものではない。教員養成系大学・学部は、教員を養成するという第一義的な目的を持っているので、教育内容には然るべき系統性・構構性が必要であるが、それが絵画をはじめとして実技系教科専門科目の全てにおいて、殆ど整備できていないという背景が現在においてもある。

2. 研究の目的

上記背景を踏まえた上で、研究代表者小澤の専門である絵画の領域から、大学における教育内容の客観的構築を目的として本研究は始められた。つまり、まずは教員養成系大学・学部における絵画に関わる教育において、本来何が教えられるべきか、つまり、必要とされるべき教員養成系大学における絵画の教育内容をつまびらかにし、それらを教科内容構造のなかに位置づけること、それによって指導者固有の価値観による偏向のない、普遍的な絵画教育内容学が成立しえるのであり、その構築が本研究の目的である。

それは言い換えれば、美術の実技系教科専門科目「絵画」の客観的教育内容のガイドラインの作成とも言える。この研究をテストケースとして、絵画だけではなく、彫刻・デザイン・工芸という他の実技教科専門科目の内容学へ向けての提言もまたもう一つの目的としてある。

3. 研究の方法

上記目的をもつ本研究にあたり、まずは国立大学法人教員養成系大学・学部における絵画に関わる教育内容についての現状の把握から始めた。そのためにとった方法は、インターネット上で国立大学法人教員養成系大学・学部の絵画の授業のシラバスを可能な限り検索し、それぞれの内容を要約し、それに基づいて現在の絵画教育の実態を把握するという方策であった（北海道教育大学～琉球大学）。

この検証作業にはかなりの時間を費やすこととなった。検索当時（2007年）においてネット上で検索可能なシラバスは100パーセントではなく、またシラバスも常に更新されているものではないものも含まれており、データの抽出に様々な問題が発生したが、それも全て含みつつ、総体を大きく掴まえると

いうことを主旨として作業を進行した。この作業から現在各大学で行われている絵画に関わる教育の概要、また内容に関するキーワードが検出できた。

以上の検証を通して具体的な絵画教育に関する傾向が理解できた。またその具体的な傾向から垣間見られる重要な諸問題が抽出されたのであるが、それについては踏み込んだ検討が必要と考え、全国の国立大学法人の絵画教員のそれぞれがどのような考え方を持っているかを、アンケートによって把握するという方策をとることとした。

このように、シラバス検証とアンケート調査という二つの方法をとることによって、現在の教員養成系大学の絵画教育の実態、そこで生じている問題や課題をおおむね把握することができ、絵画教育内容の柱、その構造のありかたを考える上で貴重な資料を得ることができた。また、授業実践を直接把握するために、他大学に調査に出向き（島根大学・岡山大学）、そこでの絵画教員による幾つかの授業実践例を見学し検証した。特に本研究分担者である千葉大学教授加藤修氏からは、氏の絵画教育における実践例とそれを行うに際しての教育理念について、詳しい研究助言が寄せられ、本研究の遂行に大きな示唆を与えることとなった。

4. 研究成果

上記シラバス分析とアンケート分析、及び大学訪問による実際の授業内容の取材を活用しながら、絵画教育内容の構造化を進めて行った。絵画表現に関わる材料や表現手法等の教育内容については、いうまでもなくどの大学においても満遍なく展開されている。しかし、最も重要なことは、表現に内在する学生個々の「個性」や「感性」とは一体何なのか、またそれらに密接に関わる学生の内発的な自己発見や自己実現の問題を、いかにして教育内容の中に位置づけ教育方法として具体化していくかという点にあることが、明らかになっていった。それは言い方を代えれば、学生に主体的に自己制作について「反省」させる有効な方策の模索ということであり、それがとりわけ教育学部の絵画教育（ひいては全教科専門教育）にとって、もっとも重要であることが明らかとなってきたのである。

この点を中心的テーマと標榜して行われている授業は、シラバス分析上は殆どないのが現状であった。教員がその点

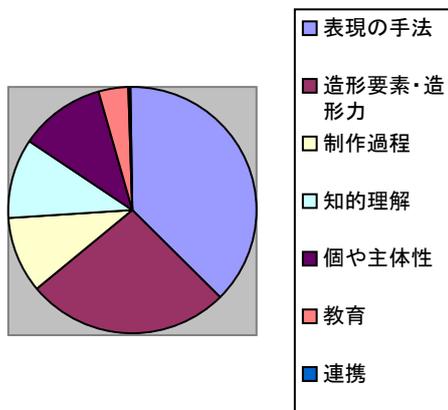
に力点を置いているにも関わらず、それが具体的授業の方法として導入されていないのは、やはりその理念の具体化が極めて困難な問題を孕んでいることの証左といえる。技法や表現の表層の問題の教育と、学生が主体的に制作を思考し、そのなかから自己に関わる様々な問題に気づき、かつ新たな自己の可能性を発見していく精神活動、つまり主体的反省の促進とその制作そして教育的理念構築へのフィードバックの方法論の確立を称揚していく教育のあり方、その内容をも含めて、教育内容として構造化していく必要性が、本研究において明らかになったと言える。

以上までが二年間での本研究の成果である。この研究を通して、今後の筆者の研究が、「反省」の有効な教育的方策についての問題に焦点化されることが明らかとなり、それを教育的にどう確立していくのかという点に焦点化されるべきであることが理解された。

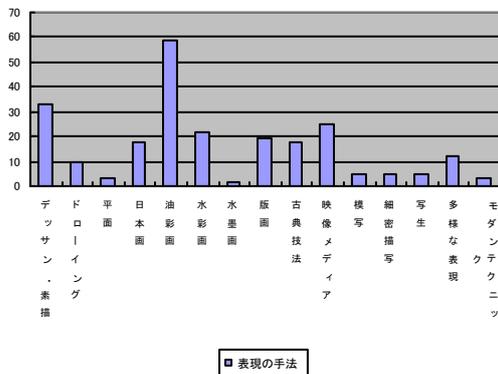
【参考資料】

シラバス分析結果による現行の絵画教育内容図

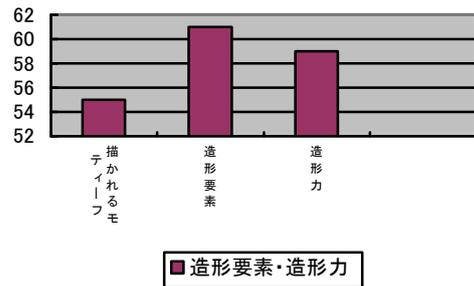
● 絵画教育内容の内訳



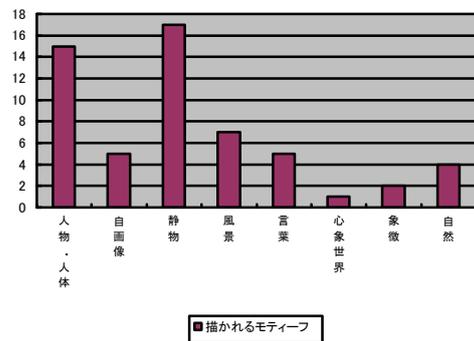
I 「表現の手法」の内訳



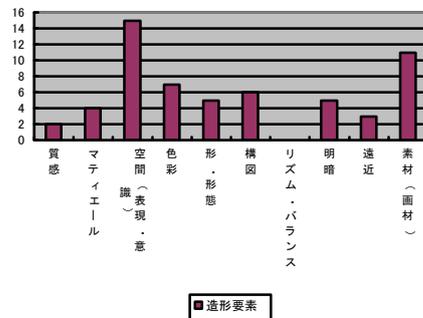
II 「造形要素・造形力」の内訳



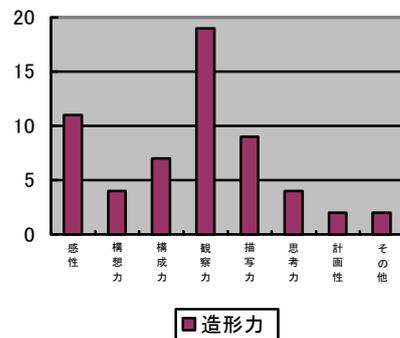
II-1 「描かれるモチーフ」の内訳



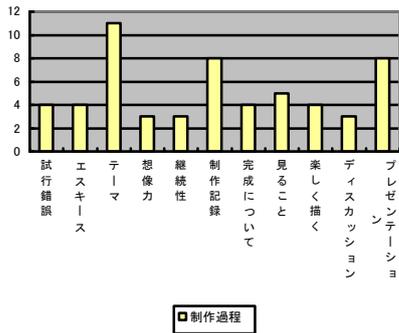
II-2 「造形要素」の内訳



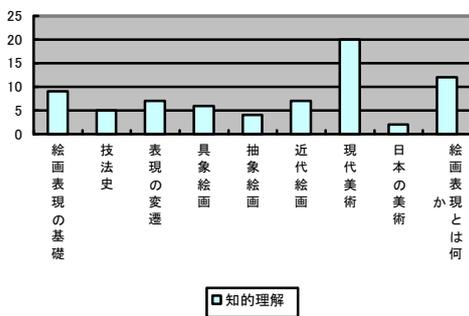
II-3 「造形力」の内訳



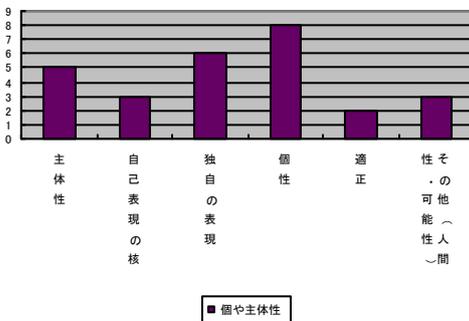
III 「制作過程」の内訳



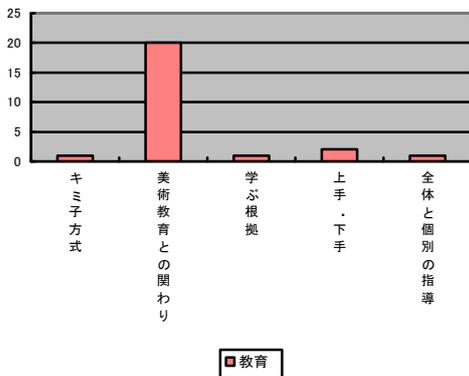
IV 「知的理解」の内訳



V 「個や主体性」の内訳



VI 「教育」の内訳



5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 3件)

- ① 小澤基弘、「教員養成系大学・学部における絵画教育内容の構造化についての研究－現行のシラバス分析による現状考察と今後の課題－」、『埼玉大学紀要(教育学部)』、第57巻第1号、7-24頁、2008年、無
- ② 小澤基弘、「教育養成系大学・学部における絵画教育内容の構造化についての研究Ⅱ－大学教員へのアンケート結果の分析と考察－」、『埼玉大学紀要(教育学部)』、第57巻第2号、1-15頁、2008年、無
- ③ 小澤基弘、加藤修、「教育養成系大学・学部における絵画教育内容の構造化についての研究Ⅲ－大学現場の実践報告に基づいて－」、『埼玉大学紀要(教育学部)』、第58巻第1号、43-56頁、2009年、無

〔学会発表〕(計 0件)

〔図書〕(計 0件)

〔産業財産権〕

○出願状況(計 0件)

○取得状況(計 0件)

[その他]

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小澤 基弘 (KOZAWA Motohiro)

埼玉大学・教育学部・教授

研究者番号：40241913

(2) 研究分担者

加藤 修 (KATO Osamu)

千葉大学・教育学部・教授

研究者番号：20302515

(3) 連携研究者